

第24回スポーツ・ボランティア・リレートーク レポート

2013年6月18日(火) 19時より21時

中央市民センター 第一セミナー室A

参加者 18名

「地域とともに～バスケットボールを通じて出来る事」

講師 仙台89ERS ゼネラルマネージャー 間橋 健生 氏



はじめに

みなさん、こんにちは。私は仙台89ERSの間橋といいます。本日は最初にバスケットボールについてお話しし、次に仙台89ERSについて自分がやってきたことも含めてお話ししたいと思います。ぜひ、気軽に聞いていただければと思いますのでよろしくお願ひします。

バスケットボールについて

いうまでもなく私達はプロのバスケットボールのチームを運営しているわけです。ですから最初は簡単にバスケットボールの歴史についてお話ししたいと思います。

バスケットボールは今から120年ほど前にアメリカのマサチューセッツ州で、ネイスミスという人が雨の日にやるスポーツを考えたことから始まりました。当時のアメリカでは身体接触をするスポーツが多く、彼はそのことが嫌いで、身体接触をせずに室内でやるスポーツを考えたのです。バスケットも接触はありますがこうしたことから接触するとすぐファールというルールになっているのです。最初は、ボールを入れるために箱を用意しようとしたといいますが、1891年当時たまたま頼まれた人が桃を入れるかごを用意したため、バスケットボールになったといえます。(もし箱があったらボックスボールになっていたかもしれません)

最初は9人対9人でやり、当時留学中だった石川さんという人が最初から日本人として参加していましたが、日本では残念ながら野球・サッカーと比較するとまだ人気がない状況です。



3m5cmというリングの高さは誕生から唯一変わっていないルールです。それ以外のルールはいろいろと変わっていて、バスケットボールのシュートに際にリングの後ろにあるボードが何故ついたかという、最初参加する人数に制限を設けず、リングを1階と2階の境に取り付けたため、2階の後ろから手を出してじゃまする人がいて、いくらやっても決着がつかなかったためボードが取り付けられたといひます。

さて、日本には1908年にYMCAの卒業生によって伝えられ、そこから約100年後の2005年に、初のプロリーグとしてbjリーグが誕生しました。実は世界規模でみるとバスケットボールは競技人口が4億5千万人いて、サッカーや野球より多いのです。しかし、人気では野球、サッカーになかなか勝てないのが実情です。日本も同じ傾向でなでしこ人気もあって競技人口でもサッカーに抜かれる可能性が高くなっています。

bjリーグは現在拡大して、2005年6チームから始まり現在21チーム、今季は青森と奈良が、来年は福島が参加することとなっています。リーグの計画では24チームまではふやすこととなっているため、今後が注目されます。

さて、すこし固い話しが続いたのでちょっと休憩をかねて試合の楽しみ方についてみたいと思います。

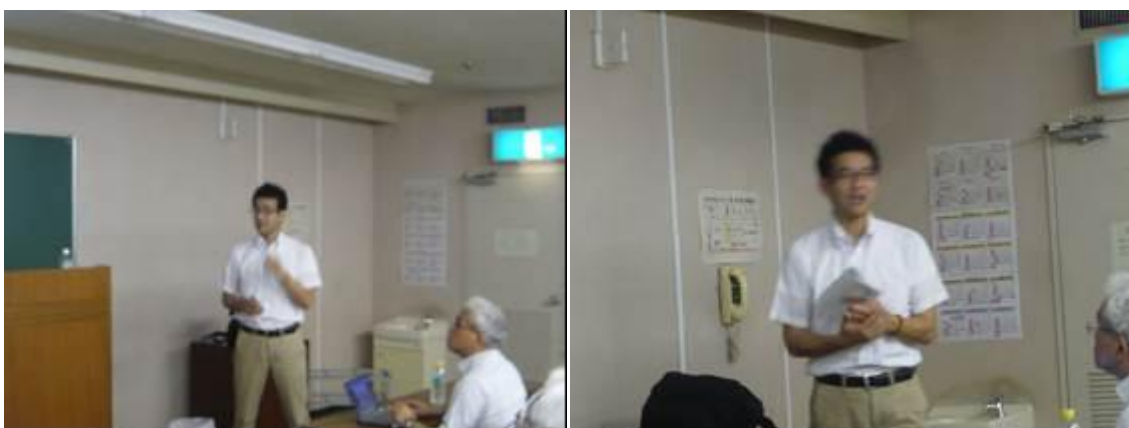
試合の楽しみ方について

日本でなかなかバスケの人気のでないのは見る側の文化がないからといわれています。そこでちょっとゲームの際に、注目してほしいポイントについてお話ししたいと思います。

まず、ゲームの中でとられる「タイムアウトのあとは何かがおきる」ということです。これは指示によってビックプレイがしやすいのです。そのプレーはいろいろですが、ぜひ注目してみてください。

次に「ベンチをみると面白い」と思ひます。選手達が試合中すわっているのですが、うちのチームは間をあけないですわっています。一方でバラバラに座るときはチームがうまくいっていないとき、そういうときは意外に負けることが多いものです。

また、「シュート後のパフォーマンス」も選手によってそれぞれ違ひます。それから、「ポイントガードのサイン」を見のがさないようにしてください。これはそのサインにあわせて選手がプレーすることになっているからです。どんなサインがどんなプレーにつながるのか、楽しみながらみて下さい。



地域とともに

ここからは本題にはいりません。私達仙台89ERSがどのように地域に密着しているかについて話したいと思います。

まず生き残っていくためにはかかせない地元メディアとどれほど連携したかという実績ですが、現在は地元新聞社の河北新報とは良好な関係があり、昨シーズンは朝刊だけで176回も取り上げていただきました。その他のスポーツ新聞なども含めるとじつに245回掲載、他にもテレビや雑誌などにも取り上げられました。



次に地域の子供たちがホームゲームの前にプロ選手と同じコートでプレーをするエキシビジョンマッチを昨年は8回実施しました。これは子供たちに夢をもっといただくことであり、今後はさらに増やしたいと考えています。

コラボパフォーマンスとして仙台89ERSのチアが高校や大学のチアやダンス部を招待して、タイムアウトやハーフタイムと一緒にパフォーマンスを披露するイベントは、昨年は10校と連携し開催されました。会場を盛り上げる企画となっています。



ボランティアについては、昨年は1試合あたり約40名のスタッフが参加、登録は134名、シーズン中の活動は延べ826名にも達しました。ゲームの運営に欠かせない存在であり、本当にありがとうございます。また、他のスポーツチーム同様仙台89ERSも、エコアリーナをめざして活動して来ました。この活動へのご協力にも感謝したいと思います。

選手やチア、そしてティナなどが地域に出向いて参加するイベント出演については去年は62回にのびりました。一日警察署長、動物園の園長、チアのパフォーマンスなどで地域の方々の役に立つように活動させていただきました。

子どもたちの心身の健全育成とバスケットボールの普及のため幼稚園・保育所・小中学校などの学校訪問も積極的に行い、去年は23回、2,234名の子供たちと楽しみました。幼稚園・保育所ですとチアとティナが多く、小中学校は選手が授業に参加するなどしています。このほか、バスケットボールの普及と強化を目的としたクリニックも10回開催し、1,313名の子供たちに基本技術を教えました。また、仙台市教育委員会などと連携し、選手が学校を訪問して夢をテーマにお話ししました。チアが子供たちにレッスンするダンス教室は計10回、579人を対象に開催、スクールでは293名を対象に事業を実施、一昨年はあすと長町に専用コートが完成、私達がハレオドームの管理運営をすることになりました。そこにバスケットの学校のようなものを作り、スキルアップをめざして指導してきました。私の夢は仙台89ERSの日本人選手が全員仙台出身の人間になるということですが、実際に可能性のある選手も何名かいますので楽しみにして下さい。スクールの展開による効果は、底辺の拡大と選手の育成と強化だけではなく、指導者の育成や仙台89ERSの強化にもつながります。今後さまざまな相乗効果が出てくれば最高です。

これからに向けて

自分が思い描いているものとして宮城県、仙台のバスケットボールのスタイルというものを作りたいと思っています。私達だけではなく各組織のひとたちと協力しあって作っていきたいのです。具体的には指導者によって教え方がすべて変わってしまうのではなく、一貫したスタイルができるといいと思います。夢はあきらめないことが大切です。実は私の双子の弟が甲子園に行くことを夢にしていたのですが、結局自分ではいけませんでした。しかし、その後指導者になり、古川工業で監督として甲子園にいったのです。私も彼に負けられないようにしたいと心から思っています。

質問

Q バスケットチームの経営は仙台89ERSとしてはどうか。

A 経営はリーグ全体で考えていかないといけないが、人気を高めることでスポンサーや放映権を確保することが必要。会社としては最初は赤字、やっとなら黒字化し攻勢にできるのはこれからでモデルとなりうると思います。

Q 何故日本ではバスケットボールの人気のでないのか

A 現状では家族でいく場所としての選択肢に入っていないことが大きいと思います。

Q チームが存続するためにはJBLとの連携が必要ではないか。

A 見通しとしてはなかなか厳しいと思います、相手はアマチュアで一方資金力がある。

リーグ自体が大きなマーケットになることをbjはめざしています。 【文責 泉田】